

平成 21 年度 新技術活用ビジネスモデル実証事業 実施主体 事業計画概要一覧

実施主体名 「課題名」	実証試験の対象品目	対象範囲 ⇒ 食品の流れ ⇒ 電子タグ付コンテナの流れ	新技術の活用 (1) 電子タグの種類 (2) 電子タグの使用法	実証するビジネスモデル
イフコ・ジャパン株式会社 「電子タグ付レンタルコンテナを用いた流通業務の効率化」	・加工用 レタス	<pre> graph TD A[生産者] --> B[集出荷業者] B --> C[加工業者] C --> D[外食業者] E[コンテナレンタル会社] <--> B E <--> C </pre>	(1) UHF 帯電子タグ (2) カード型電子タグを「折りたたみレンタルコンテナ」に装着する。集出荷業者、加工業者、コンテナレンタル会社において入出荷した際、一括読取をして、入出荷確認や洗浄履歴登録などを行う。情報はデータセンターの情報公開用 DB で管理される。	レンタルコンテナに装着した電子タグの一括読み取りにより、生産者から加工業者までの流通業務の効率化を実現する。 ・商品の入出荷並びに検収業務を自動化し、作業の負荷を低減 ・コンテナの受払管理の自動化 コンテナ紛失管理業務を軽減
東京都水産物卸売業者協会 「卸売市場（水産物）における IC タグ活用による物流効率化実証」	・冷凍マグロ ・あわび	<pre> graph TD A[産地] --> B[卸売業者] B --> C[仲卸業者] C --> D[小売業者] </pre>	(1) 未定 (2) 産地の荷主が入庫時に商品に電子タグを着ける。産地からの出荷時、卸売業者での品揃え時、仲卸業者での入荷時に、電子タグの読取および書き込みを行う。情報は東京都水産卸売業者協会に設置される DB で管理され、小売業者からも个体番号により検索できる。	・出荷時に管理ロット単位で電子タグに情報を書き込み、流通上の通過地点等で必要により情報を付加し、流通履歴を管理すると同時に、従来の送り状情報を持つことにより卸売市場での荷受時の検品作業を迅速に行える。 ・出荷時の情報は、出発時に卸売市場側に送られサーバーで一元管理されるため、情報をリアルタイムで把握でき、事前に物流作業計画が立てられる。
株式会社三菱総合研究所 「朝採り野菜」可能な大容量電子タグを用いた卸売市場を核とした地場農産品の物流コスト削減と付加価値向上～卸売市場を核とした地産地消ビジネスモデルの確立～」	・「朝採り野菜」 (北九州青果㈱)	<pre> graph TD A[生産者] --> B[農協集荷場] B --> C[卸売会社] C --> D[小売業者] </pre>	(1) 大容量メモリを内蔵した UHF 帯または 13.56MHz 電子タグ (2) 電子タグを通い容器に装着する。通い容器の貸出時、商品の荷受時、商品の販売時、通い容器の返却時に書き込みおよび読取を行う。情報は、電子タグのメモリだけでなく管理システムにも記録される。	通い容器に貼付される、大容量メモリを内蔵した電子タグに、生産や物流、取引等に関する情報を卸売市場の卸売会社等が書き込み、またはその情報を読み出し、物流業務の効率化や迅速化、通い容器の管理の厳密化等を図り、もって物流コストの削減を図るとともに、記録・蓄積された履歴情報を活用した商品の付加価値向上も実現する。